

当面のスローガン

- 「人権侵害救済法」制定を!
- 狭山再審闘争勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
中澤敏浩



和歌山からも参加した

再審を訴える石川一雄さん・早智子さん
横断幕をもってデモ行進する参加者



無実を叫び続けて半世紀

狭山市民集会

日比谷野外音楽堂で10月30日、狭山事件の再審を求める市民集会がひらかれ、県連から55人が参加した。石川一雄さんが無実を叫びつづけて49年、来年には半世紀になろうとしている。09年9月に三者協議がはじまり、第3次再審に向け大きく動きはじめている。証拠開示・事実調べ、そして、再審開始を求めた集会在ひらかれた。



多くの国会議員も支援にかけつけ、福山哲郎・衆議員議員(民主党)は「石川さんが失った50年間はあまりにも重い。石川さんの再審請求をつうじて、司法改革をおこなっていく」と共同の決意を述べた。石川さんは「今年中の再審開始を

求めて活動をしてきたが、残念ながらできていない。事件発生から50年を迎える来年こそ、事実調べを勝ちとって元気なうちに無実をあきらかにしたい」と決意を述べた。

鎌田慧・狭山事件の再審を求める市民の会事務局長は「国家権力は部落差別を利用し、石川さんを罪に陥

再審開始をかちとろう!

求めた。狭山事件をみんなに知ってもらうため、今日のデモ行進を笑顔でおこなっ

てほしい」と集会のまとめがされ、参加者は野外音楽堂から部落解放と石川さんのえん罪を訴えるシユプレヒコールをあげながら、常盤橋公園まで約1時間のコースを歩いた。

兵庫県内を視察

農林漁業運動部長会議

10月23日、24日、第69期第1回全国農林漁業運動部長会議が姫路市で現地視察を兼ねてひらかれた。県連から、北岡啓二・部長ほか事務局2人が参加した。はじめに、篠山盆地特有の気候風土や土壌を活かして栽培される丹波黒大豆や山芋など特産作物について視察した。

その後、尾倉功・課長補佐農林水産省経営局就農女性課から経営体育成支援事業について概要が説明された。2日目は、加西市にある上野田町・東野田町が共同で経営する農業協同作業所(ライスセンター)を視察し、第1回全国農林漁業運動部長会議が終了した。



姫路市内のホテルで



加西市のライスセンター

頑健

先日、97年の東京電力女性社員殺害事件で無期懲役とされていたゴビンダさんの無罪が確定した。裁判で検察側から「別人が犯人の可能性を否定できない。被告人は無罪」と意見を述べたのである。この事件は当初より「犯人は別人」といわれ、一審でも無罪であったが、検察側の控訴で無期となった。ゴビンダさんがネパール人であったことから、差別意識や偏見が指摘されている。「一審の無罪判決を不服として控訴した時点から証拠内容が変動しており」との検察の弁があるが「じゃあなぜここまで引つ張ったんだ」と言いたい。布川事件の桜井さん、杉山さん、足利事件の菅谷さん、志布志事件など、最近では脅迫メールの犯人とされた人たち。みんな自分を強要されている。そして、狭山事件の石川さんも、石川さんに冷え込んだ東京で、石川さんの再審実現を求める市民集会在開催され、私たちも参加してきた。裁判は、基本的人権の砦である。しかし、その裁判で人権が侵害され、えん罪に苦しむ人が後を絶たない。その背後に、警察の取り調べの実態や検察側の非人間的な姿勢がある。昔「自然は変化する春から夏へ。人間は進化する鉄鎖より自由へ」という言葉があったが、本当に進化しているのだろうか。(S・I)